

## ご挨拶

9月は毎週末に日本に台風が来、台風の中心から離れた所でも大雨となった地域がありました。被害を受けられました地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

9月～10月は附属学校で教育実習が行われます。今回の号では、附属小金井小学校での教育実習の様子を紹介していただきます。

東京都の新規コロナ感染者数が1万人を切るようになり、マスク着用・大声なし・観客数等の制限はありますが、各種イベントが開催されるようになって来ました。この2年間開催を中

止していました小金井祭も、飲食禁止という制限はありますが、11月6日～7日に開催される予定です。模擬店がないと小金井祭の雰囲気が変わりそうです。8月に徳島市で開催されました「阿波おどり」では踊り手のおよそ4人に一人が新型コロナに感染したそうです。小金井祭での感染対策は十二分にする必要があります。

マスクなしで辟雍会会員の皆様と歓談できる日が早く来ますことを願っています。

辟雍会会長 長谷川 正



## コロナ禍3年目の教育実習

### —新米校長の所感：附属小金井小—

コロナ禍となって3年目の教育実習を迎えました。今年度から附属小金井小学校の校長職を拝命した私は、過去2年間の実習の様子がどうであったかは明確には分かりません。しかしながら、今年から、教育実習生を受け入れる附属学校側の一員として感じることに、少し共有させていただきます。

附属小金井小では、8月最終週から10月第一週までの約1カ月半の期間に、約160名の学生を教育実習として受け入れています。これを前半と後半に分けた2部制にて、各3週間において実施されます。この秋休み期間中の実習は大学3年生が中心で、前後半それぞれにおいて各学級に約5～6名ずつ配属されます。なお2月にも、副免許としての小学校教員免許の取得を目指した大学4年生を対象とした教育実習が実施されています。

普段の先生とは違う、子供たちにとってはより自分と年齢の近い若いお姉さん・お兄さん先生たちとのふれ合いをとても楽しみにしています。休み時間には、一緒に遊んでいる姿が校内に溢れ、活気に満ちています。子供たちにとっても、日常の家族や先生とはちがった大学生先生との関わりと学びの中で、新たな気づきや楽しみを広げ深めていく良い機会にもなっている様子がうかがえます。

前後半の各実習の最後には、クラスごとに「お別れ会」が実施されます。セレモニー的に実施するクラス、校庭でドッチボールや野球・サッカーなどのスポーツをするクラス、室内でゲーム大会をするクラスとそれぞれです。



教室にて



休み時間風景

共通しているのは、会の最後には子供たちと実習生がお互いに感謝の意を述べ合いつつ、クラス内に温かい空気に包まれ、とても良い時間だなと感じ入っています。とくに低学年の児童に多いですが、別れが惜しくなって涙する子供も少なくありません。そのような光景を目にして、自分自身も目頭を熱くしているところです。

総じて見ているの所感ですが、感染防止への最大限の対策を講じつつ、実習が円滑に運営されていることにとっても感心しています。これは、過去2年間におけるコロナ禍での経験が生かされて、送り出す大学側と教育実習生自身、そして受け入れる学校側において、具体的にどのように進めればよいかという方策や基準などが確立されてきていることによるでしょう。そうはいつても、受け入れ側の現場となる学校においては、普段の児童に実習生も含めた感染防止への配慮ならびにサポートをしなければなりません。そのうえで、通常の実習生指導をすることになるわけですから、ご指導いただく先生方にかかる労力は想像に難くありません。

今年度から附属学校の校長を経験させていただき、自分自身が多くの気づきと学びを得ています。教育実習においては、学生を送り出す大学教員の立場として、コロナ禍という大変な状況の中にあっても、実習生への丁寧な対応と熱心な指導をしてくださる附属小金井小の先生方に敬意を表するとともに感銘を受けています。未筆ながら、そのような先生方の真摯な姿勢とご尽力に、心より感謝申し上げます。

体育学分野教授・附属小金井小学校校長 小森 伸一



体育授業風景